

野生動物による農作物被害を防ぐには

<サル被害場所の季節的变化>

NO.12

山梨県環境科学研究所吉田氏が、南都留地域で行った調査結果では、被害の発生頻度が最も高いのは冬季でした。

その詳細と対策について考えてみましょう。



春の被害

春期（3～5月）の被害は葉菜類とダイコンなどの根菜類が中心となります。

被害にあった場所を山林の際からの距離で見ると **50m 以内が大部分(約70%)**で人里にはあまり近づきません。山林近くの畑に現れ、**荒らしては逃げることを繰り返します。**

夏の被害

夏期（6～8月）はトマトやナスなどの果菜類が中心となり、被害の傾向は春と同様です。

秋の被害

秋期（9～11月）はカキに被害が集中し、被害の傾向は春と同様です。

冬の被害

冬期（12～2月）はネギ、ハクサイ等の葉菜類やダイコンなどの根菜類の被害が中心となりますが、**摂取している食物の半分近くは、未収穫物（クズ野菜）や生ゴミによるものです。**

被害地域は、人里近くまで及び、山林から 180m に達しすることもあります。冬のサルは、長時間にわたって、**畑に居座り野菜や未収穫物を食い荒らします。**

何故サルは冬になると人里近くまで来るのでしょうか？

資料「何故サルは畑を荒らすのか？」でも説明しましたが、山林に十分な食べ物がなくなる冬には、相対的に「里」の利用価値があがります。冬に栽培している農作物の量は必ずしも多く無いこともあり、未収穫物の野菜や、生ゴミを食べています。

サルに畑の未収穫物や生ゴミを食べられても、熱心にサルを追い払う人は少ないと思いますが、冬に栄養価の高いものを食べることで、生存率や繁殖率が向上し、サルの個体数が増える原因となることが危惧されます。

ではどうすれば？

サルを見かけたら追い払いは必ず行いましょう。また、畑の未収穫物や生ゴミ等サルが食べられるものは除去しましょう。

日光のサルをご存じですか？

観光客の餌付けにより、人に慣れたサルが、餌付けを禁止したことで、人の持っている食べ物を力づくで奪ったり、人家や車に侵入するなど被害を悪化させています。県内においてもサルによる人身被害は皆無ではありません。畑の未収穫物や生ゴミを「仕方ない・面倒くさい」とサルに食べさせることは、サルの被害を助長し、悪質な被害に繋がる可能性が考えられます。決してサルのためにも、ヒトのためにもなりません。